



帰国生の学校選び A to Z

●第9回●

急な帰国に備えて編入先の情報収集と学習対策を！

間もなく2月です。中学・高校入試シーズンの到来です。ただし、帰国生の場合は親の帰任の時期が合わないので、この時期の入試を受験できず、学年や学期の途中に編入するというケースも目立ちます。

編入は必ず実施されるわけではありません。編入時期も多くが4月と9月に限定されています。また、中3や高3時の9月編入はほとんどありません。中には1月編入や特に時期を定めない編入もありますが少数です。また、募集人員も定められていませんし、欠員が生じたときのみ実施する場合があります。そして編入学試験の情報を収集しようとしても、募集要項を一覧でまとめたようなものは見当たりませんので厄介です。各学校に個別に問い合わせをして帰国時期の編入の有無を確認せねばなりません。志望校の選択条件を緩やかに考え、編入学実施の可能性のある学校を多めに選定しておき、その中から帰国時期の編入学実施校を受験校として絞り込んでいくのがよいでしょう。

編入試験では、多くの学校が筆記試験として英語、数学、国語の3教科を課します。出題範囲は編入する学校の当該学年で、それまでに履修している内容となります。中高一貫校では、進度が早く、中3なのに高校の学習内容を履修している学校もありますので注意が必要です。また、中高一貫校に限らず、国語では古典の出題もあります。古典は苦手な生徒も多いですし、特に高校の古典は難解です。英語については文法や和文英訳、英文和訳など、現地校では学んでいない出題があります。このように編入試験では、編入学後に授業についていけるだけの学力が判定されるので、それに対応できる実力を身につける必要があります。一方で、英検合格や TOEFL などのスコアは、英語圏からの帰国生としての長所をアピールできますので積極的に受験することをお勧めします。



執筆者：丹羽 肇人
(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140